防災用品で心構え

備える　その19「身の回り」

宮城県や北海道で大地震が相次いだ今年は、身近な地震対策への関心が高まった。発生時に身を守るベッドや、被災後の生活を支える非常食、簡易トイレといった防災用品の売れ行きが伸び、新たなアイデア商品も続々と登場している。防災の基本はふだんの心構え。前回の家具固定に続き、食べ物や道具類の準備、ペットのしつけなど日常の取り組みを考えた。

食料や道具 準備は大丈夫？

〝耐震ベッド〟で安眠

鋼鉄製の頑丈なフレームがベッド上の空間を覆う「防災ベッド」。愛知県岩倉市の無職三輪素通さん(六三)と順子さん(六一)の夫妻は先月初旬に購入した。

順子さんは右半身が不自由なため、いざという時、とっさに動けない。「このベッドで安心できて、よく眠れるようになりました。地震の時も、あわてなくていいですから」と喜ぶ。

防災ベッドは、東海地震対策に取り組む静岡県と、同県富士市の金属加工会社「宝永工機」が共同開発した。住宅の耐震化が難しい場合の代替手段と位置づけ、今年から本格的に売り出している。

三輪さん宅は築四十年の木造家屋。家の中の段差をなくすバリアフリーの改装をしたのに合わせ、防災ベッドの導入を決めた。東海地震に加えて東南海・南海地震もいつか起こると聞き、心配になっていたからだ。

「地震で家がつぶれるかもしれんが、大がかりな建て替えはしんどい。命だけは守れるようにしたかった」と三輪さん。横たわってみると、意外に圧迫感はなく、安心して眠れるという。

防災ベッドは受注生産で本体二十万円。設置費用などは別。手持ちのベッドに防護フレームを後付けすることもできる。一般向けのほか、介護ベッド型もある。

これまでに静岡、愛知の両県を中心に八十台を販売した。静岡県の担当者は「若干、値段が高いとも言われるが、全国から問い合わせが来る」と話している。

家屋の倒壊から身を守る防災ベッド＝静岡市の静岡県地震防災センターで

体験を活用し品定め

身の回り品の情報を集めるのに役立つのが、「防災グッズ体験レポート」というインターネットのホームページ（HP）だ。防災用品を実際に使ってみて、詳細な報告を載せている。九月の十勝沖地震の直後は、三日間でアクセスが一万件を超える人気ぶりだった。

HP管理者は、静岡県長泉町の自営業玉木貴さん(三一)。「身近な防災グッズは、アウトドアの延長と考えてもいい。堅苦しく考えすぎると、とっつきにくくなる」といい、手軽な発想で取り組んでいる。

東海地震に備えて非常食などの防災グッズを探すうちに、本当に役立つかどうか疑問を持ち、試食、試用を始めた。集めたデータを広く知ってもらおうと、昨年八月、HPを開設した。

衣、食、住など各分野ごとに、試した商品の写真とコメントを掲載している。非常食では味、満腹度、携帯性などの基準で評価する。「一食分にしてはとても足りない」などと厳しい指摘もある。

レトルトごはんを使い捨てカイロではさんで温めるなど、意外なアイデアも紹介している。

玉木さんは「学者や専門家と異なる一市民の目線で防災を考え、情報を提供していきたい」と話す。

必需品セットが人気

「非常用持ち出しセットは昨年の倍以上、売れています」と、説明するのは、愛知県一宮市の防災用品・寝具販売「タナカシンソー」社長の田中義人さん(六七)。

今年は五月と七月に宮城県、九月には北海道で大地震が相次ぎ、市民の防災への関心が高まったようだ。同社では八千円前後のセットが好評。東海道沿いの愛知、静岡、神奈川などの各県の住民から注文が多い。

名古屋市中村区の東急ハンズ名古屋店でも、防災用品をフロアの目立ちやすい場所に展示。昨年四月、名古屋市が東海地震の新たな防災対策強化地域に指定されて以降、商品に関する問い合わせは、ぐんと増えている。

よく売れるのは、市民へのアンケートで災害時の必需品を調べ、結果を踏まえて組んだオリジナルセット（九千八百円、税別）。簡易トイレ、ウオーターバッグに加え、わかめごはんや水までそろっている。

田中さんは「防災用品は保険と同じ。使わない方がいいに決まっているが、備えは必要。お客さんの間で、そうした理解が深まってきた」と話している。

◇防災ベッド
▶宝永工機
＝電0545（71）2513
◇防災グッズ
▶タナカシンソー
＝電0586（43）0206
※インターネットショップも開設
▶東急ハンズ名古屋店
＝電052（566）0109
〈問い合わせ先〉

・命を守ることから
・アウトドア感覚で
・HPに生きた情報

アイデア競い 新商品次々と

『生活に合ったもの選んで』

百貨店やスーパーの防災用品売り場をのぞいてみると、新商品が続々登場している。

非常食

根強い人気の乾パン、クラッカー類に加え、水を入れて戻すアルファ米やもちなど、やわらかい食品もよく売れている。非常食購入の目安は使いやすさと味、量、保存期間など。

人気HP「防災グッズ体験レポート」を運営する玉木貴さんは「家族構成によって必要な品は変わってくる。十人十色でいい」と、自分の生活に合った備えを呼び掛けている。

ラジオ

手回し充電式のラジオやライトは電源や電池がなくても使え、緊急用に役立つ。ラジオ、ライトの一体型、さらに携帯電話の充電用コードが付属した商品など、数種類が売り出されている。一分間の手回しで一時間の使用が可能なラジオも。電源の確保を考えた商品では手回し式のほか、小型の太陽光発電装置も発売されている。

携帯トイレ

意外な必需品として、携帯トイレも新商品が相次ぐ。高速吸水シート、凝固剤などを使い、手軽に処理できるのが特徴。用便袋だけの簡単な商品から、強化段ボールでいす型の便器を組み立てる方式まで各種ある。

災害時、仮設トイレの設置に時間がかかることも考えられるし、数に限りもある。食べるだけでなく、排せつへの関心は重大事だ。

災害時、仮設トイレの設置に時間がかかることも考えられるし、数に限りもある。食べるだけでなく、排せつへの関心は重大事だ。

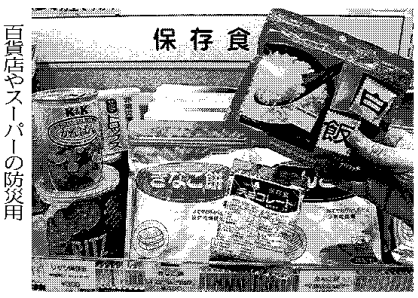
ベスト

非常持ち出し品をポケットに詰め込んだベストは、持ち運びに便利。自宅や勤務先の出入り口の近くに備えておけば、屋外へ避難する際に目につきやすい。ラジオやライト、アルミブランケットなどがセットされているほか、大きなポケットに自分で必要な非常食や水などを選んで収納しておける。もちろんベストは衣料としても有能。

防災セット

大人一人・三日分の水と食料、ブランケットをコンパクトにまとめた防災セットは、企業の備蓄用などに好評。激しい温度差でも変質しないため、乗用車内に置いておくこともできる。

アルミ製のブランケットは宇宙服用に開発された軽量素材で、防寒用や雨具など多目的に利用可能だ。



上アルファ米や乾パンなどの保存食　中食料、水、ブランケットが入った防災のセット　下ハンドルを回して充電することができるラジオ

上持ち運びが可能なトイレなど避難用品を内蔵した多機能ベスト　下ライト

ペットも避難 しつけは日常から

迷子札取り付け 集団生活に順応 避妊と予防注射

「地震があったらペットと一緒に避難したいでしょう。そのためには、平常時のしつけが大切です」。日本動物愛護協会（東京都港区）の会田保彦事務局長は、ペットの避難生活を想定した日ごろの備えを訴える。

同協会によると、ペットを飼っている家庭は全世帯の37％。一九九五年の阪神大震災や二〇〇〇年の有珠山噴火、三宅島噴火などの災害が続く中で、ペットの避難をめぐる問題は次第にクローズアップされてきた。

避難所にペットを連れて行ったとしても、動物が苦手な人もいる。ペットの迷子も心配だ。同協会が調べたところ、阪神大震災のときに保護されたイヌとネコは、計千五百五十八匹に上った。

どうすれば災害からペットを救えるか。それは飼い主の心構えしかない。

第一に、飼い主を明示すること。阪神大震災で保護されたイヌとネコのうち、飼い主が判明したのはわずか4・2％だった。鑑札や迷子札を取り付け、連絡先が分かるようにする。

第二は、集団に慣れるしつけ。被災地に設けられる動物救援の施設では、他のイヌやネコも一緒になる。仲良くなれずにおびえていたら、暮らしていけない。人間に対しても慣れが必要だ。

もう一つは避妊、去勢の措置と予防注射。集団生活で他の動物と接触する機会が増えるため、身を守る必要がある。

これらはいずれも、ふだんの飼育で求められることばかり。会田さんは「モノ、カネは緊急時でも、全国どこへでも届けられる。だが、しつけは急にはできない」と強調する。

行政も、ペットのしつけに関しては同意見だ。兵庫県生活衛生課は「イヌやネコに、緊急時だからいい子にしなさい、と言っても通じないでしょう。やはり、日常のしつけが大切です」と話す。

阪神大震災のときは、ペットの取り扱いにばらつきが出た。動物の受け入れに消極的な避難所があった一方で、二階建ての二階部分を動物と同居が可能にするなど、うまく「住み分け」したケースもあった。

ただ、いくら住み分けようとしても、ほえ続けるイヌや、人につめを立てるネコでは無理。同課では「日ごろから、大勢の人が集まる場所での過ごし方を教えておいてほしい」と、飼い主にしつけを求めている。

思わぬ災害に遭ったとき、ペットが心の支えになり、勇気を与えられることも多い。「動物を救うことが、結果的に人を救うことになる」。会田さんは、そう訴え続けている。

© 中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています。